

自転車マナーを伝える

7月11日、直方北小学校体育館で自転車マナー教室が開催されました。

講師であるジャイアントストア直方の園田裕之さんは「交通ルールを守ることはもちろん大切ですが、私は一人の自転車乗りとして自転車マナーについて一人でも多くの人に知ってほしいです。特にこれからの子ども世代には危険な行為や道具の使い方をしっかり知って、自転車を楽しくで欲しいです」と語りました。

参加した児童は「自転車のマナーを知れたので、気をつけて乗ろうと思います」と話しました。



防犯カメラ寄贈

7月12日、直方ロータリークラブの藤永勝巳会長が市庁舎を訪れ、防犯カメラ3台(直方市多世代交流スペースこっこつちやに2台、直方駅舎内の公衆トイレ付近に1台)を寄贈したことを報告しました。

藤永会長は「防犯カメラを設置するだけで犯罪の抑止力になる。市民の安心・安全を守るために貢献できればと思い、寄贈しました」と語りました。

大塚市長は「防犯カメラを寄贈いただき、本当に感謝しています。これで、市民の安全をより守ることができるようになります。今後とも、共に市民の安全を守っていききたい」と感謝を述べました。



竜王峡開村 ヤマメの掴み取り大会

7月14日、竜王峡キャンプ村にて開村式が行われ、開村式後は、大塚市長と上頓野小学校の児童達がヤマメの放流を行いました。

翌週23日には、ヤマメの掴み取り大会が開催されました。放流されたヤマメはおよそ100匹。30センチを超える大物も放流され、川が埋め尽くされるほどの人で賑わいました。



直方ライオンズクラブ 観戦用ベンチを寄贈

7月19日、直方ライオンズクラブの創立65周年記念事業として、西部運動公園の観戦用ベンチ6基の目録贈呈式が行われました。

同団体は発足当初より様々な寄付をしており、今回は供用から25年を経過した西部運動公園へのベンチが寄贈されました。飯野剛士会長は「西部運動公園を利用する人に気持ちよく使っていただけたら幸いです」と話しました。

大塚市長は「ベンチの寄贈は多くの人に喜んでいただけるものです。市民を代表して感謝します」と述べました。

今後、西部運動公園のテニスコート周辺で、利用者の憩いの場として活用します。



のおがた夏まつり

2023

7月30日、4年ぶり夏の開催となる「のおがた夏まつり2023」が開催されました。当日の来場者数は約16万人。

日中は、炎天下にも負けず、JCまつりでは歌、ダンスやシャボン玉パフォーマンスなどの多彩な催しが開かれ、夕方には直方山笠の

フィナーレを飾る「追山笠」が行われました。沿道は駆け付けた人で埋め尽くされ人々の声援と熱気を浴びながら、山車は時折、「がぶり」を披露し、会場を盛り上げていました。

日が落ちた頃、総数6000発の花火が夜空を彩り、「のおがた夏まつり2023」を締めくくりました。



ブラジリアン柔術で

全国大会優勝

8月1日、第15回全日本キッズ柔術選手権を制した直方寝技研究会の渡辺^{わたなべ}三千花^{ちちか}選手(小学4年生)が両親とともに市長への表敬訪問を行いました。渡辺選手は市内の道場では週2回の他、福岡市内に出稽古^{でかけ}にでかけ、練習に励んでいます。同会代表で渡辺選手^{わたなべあきさ}の父の渡辺陽^{わたなべあきら}さんは「テクニックが高く、上級生相手にだって勝てる実力を持っているし、引きずり込んでからの三角締めが得意技。良い報告を持ってこられて良かったです」と語りました。大塚市長が渡辺選手に「柔術のどんなところが楽しいですか」と尋ねると、「稽古がとても楽しいです」と満面の笑みで答えました。

稽古場である下境3区公民館での練習内容について、渡辺代表は「30種類の基礎練習を40分行い、技術練習やスパarring。子ども同士だけでなく、大人とも練習を行うので体格差がかなりあるが、どうやって戦っていくのか日々考えながら取り組んでいます。優秀な成績を収めている子が増えてきているので、今後も指導に尽力して柔術の輪を広げてい

きたい」と語りました。大塚市長は「優秀な成績を収め、これからの活躍も非常に楽しみです。今後もうれしい報告を待っています」と激励しました。渡辺選手は「これからも大会で勝ち上がっていきたいです」と意気込みを語りました。

